

野々市市まちづくり基本条例策定委員会第7回 議事・要旨
2014年4月7日(月) 19:00~21:00
野々市市庁舎201会議室

【委員12名】池田、亥野、大森、小竹、小堀、小松、中村、新美、林、藤田、山岸、吉岡(五十音順、敬称略)
【職員ワーキンググループ10名】有東、石田、小泉、熊谷、古谷、前川、水野、山崎、宮岸、(梅木)
【ファシリテーター】森山奈美氏
【事務局6名】金場、栗山、舟崎、中谷、北、徳野
【欠席者】大島、絹川、村井、谷内、神谷、飯山、池多、池上、勝井、榊原、水元

◇今回の会議で決定したこと

- ・これまでの議論で出された材料を基に条例をつくる。
- ・次回までに、まちづくりの合い言葉づくりに向けて、大事にしたい考え方をイメージする。

◇主な意見(●は後日意見)

【第6回会議全体について】

- ・スムーズに意見の集約ができてよかった。(複数)
- ・楽しい雰囲気での会議だった。(複数)
- ・ワーキンググループの参加で多様な意見が出てよかった。議論が活発になった。(複数)
- ・今までより人数が多く、色々な作業に時間がかかるのは仕方がないが、工夫されて進めやすかった。
- ・議論の意図やどの方向に行くか構想も理解したい。
- ・ファシリテーターの進め方、時間配分が上手だった。
- ・これまでの会議で良い材料が集まり、良い味の出る料理をつくるという例えが非常に分かりやすかった。
- ・時間を区切るとまとめざるを得ないので良い。
- ・多くの意見が出てちゃんとまとまることに興味する。
- ・意見は出せたがとりまとめは難しい。
- ・考える時間が多く取れなかったのが少し残念だった。
- ・グループで話すのが難しく好きな事を話してしまう。
- ・自由闊達な議論も必要である
- ・振り返りは今どの部分なのかが分かり、やりやすい。
- ・解決すべきものを明確にしないと先行きが不透明。
- ・参加したくないわけではないが、これ以上人数が増えたらどうなるか心配。
- ・ワーキンググループの仕事と、指針との情報共有をどうするか。

【まちづくりあるあるについて】

- ・記名投票は他の人の視点が見えて良い。(複数)
- ・野々市の良い所で知らないことが沢山あった。(複数)
- ・皆で出したあるあるの意見で重なるものがなく、様々な意見があった。少ない人数で多くの考えがあり、行政と市民が同じ目標で協働するのは大変。
- ・県外で出身を聞かれて金沢と答えていた。
- ・連帯感の項目が多く、課題への関心の高さが分かったのが印象的。また市民と行政の各視点から出された案お互いが共感したのも面白かった。
- ・課題だと思ふことは皆大体同じ。共有はできているので、今後どう改善していけばいいか皆で考えたい。
- ・課題と与件の違いがわかり、与件を考えても仕方がないことがわかった。
- ・自発心、自分を高めようとする方が多くて驚き、きつと野々市らしい、いいまちづくりが出来ると感じた。

【まちの課題について】

- ・自発心からボランティア、役員、参加者ともに口では言っても他人まかせにすることが多い。(複数)
- ・役割分担、リーダーの発掘、育成は必要。(複数)
- ・意欲のある若者をどうやって広げるか、若いエネルギーをうまく用いる術、周りの人を巻き込む姿勢が必要。言われれば一緒にしてくれる人が多い。(複数)
- ・市民と行政の想いが食い違い、連帯できないので課題が多い。世代間の交流も連帯感を持つ上で必要。
- ・団体の役員決めの問題は、自発心が足りないだけでなく、組織を運営する連帯感の足りなさも原因。
- ・ボランティア活動や市に積極的に関わる人がいつも同じ。積極的な人を軸に野々市らしい連帯感につなげられる仕組みが出来れば良い。
- ・連帯感は地域でのコミュニケーションのあり方が問題。
- ・ボランティアや町内会役員など、市民の参加を促進する必要。役員を決めるとき市職員が担うなど。
- ・弱点に見えることを逆に長所と見ている人がいた。頼まれれば助ける思いやりがある。野々市は遠慮がちな人が多い土地柄なのかもしれない。

【今後の会議に向けて】

- ・野々市らしさを議論する必要がある。前文に。(複数)
- ・創造力の意見が少ないので、創造力に対するイメージをつかみたい。(複数)
- ・テーマの絞り込みが進んだので、今後の予定を踏まえて勉強を進めていきたい。
- ・創造力は若者と話し合うと方向性が定まるのでは。
- ・課題が多く、出した意見の中から、具体的にわかりやすい言葉で条例にできれば良い。
- ・市長への提言は5月だが、急ぐ必要はあるのか。
- ・議会との調整も考える必要がある。
- ・市民の定義は時間をかけたい。

【その他の意見・質問】

- ・5万人都市野々市の良さがあるので42万人の市と比べることはやめたい。(比較ではなく参考に)
- ・野々市を好きになって自信を持って野々市出身だと言いたい。
- ・市の計画が市民に理解されていないので、条例も同じ道を歩む可能性がある。
- ・条例の前文に若さや野々市らしさがあふれる他とは違う読みたくなる内容にしたい。
- ・委員の名札のひもが長く名前を確認しにくい。
- 共助と互助の意味は行政の縦割りの部署で使用された言葉の食い違いだと思う。
- おもてなしは自己満足でなく受ける方が満足するのが大切。行き届いたサービスと臨機応変な心配り。

1. 開会

■事務局の新体制

金場：市民協働課長。3月まで公益財団法人野々市市情報文化振興財団で3年間勤務。

舟崎：市民協働担当

徳野：市民相談担当

栗山、中谷、北は昨年度より続投

第7回会議より、ワーキンググループメンバーが参加。

※ワーキンググループ：委員が条例の条文を考えるのは難しいので、条例の条文を作成する。色々な部署の市職員で構成される。

■本委員会のルール

- ・会議当日までに集まった意見や会議で言えなかった意見を最初に確認し、前回会議の振り返りをしてから会議を始める。
- ・番号札を使って皆の意見を聞く。
- ・会議後に言い忘れたり、言いたい意見があれば事務局に伝える。(電話、メール、FAX、郵送など)

※本委員会では、限られた時間でできるだけ多くの方が発言できるよう小グループで議論を行う。グループの中でも1人だけが話さないよう配慮する。

【事務局問い合わせ先】

〒921-8510 野々市市三納一丁目1番地
野々市市 市民生活部 市民協働課 市民協働担当

メール：kyoudou@city.nonoichi.lg.jp

電話：076-227-6029

ファックス：076-227-6259

■自己紹介（議事録参照）

委員会メンバーは、これまでの委員会で印象に残ったこと、共有したいポイント、感想を発表。ワーキンググループは、所属と名前、会議に期待する事を発表。

2. 第6回会議の振り返り

■第6回会議の振り返り

- ・第6回では、絹川委員からの議題として、市民が自主性と自発性を持ってまちの課題に取り組むためにどうするかというテーマで話し合い、意見を絹川委員にフィードバックすることを決定した。
- ・ワールドカフェのやり方は好評、様々な意見が出た。
- ・まちの課題が必ずしも行政の課題とは限らない。野々市にどのような課題があるかを知る場が必要。
- ・町内会抜きにまちづくりを語ることはできない。まちの様々な主体の役割分担と関係を考える必要がある。子供や女性、町内会、色々な立場の方々がそれぞれにまちの将来像を考えており、その将来像を知りたいという意見も出た。
- ・町内役員のなり手がいないなどの課題があり、自主性や自発性をもたせるためリーダーの育成が重要。
- ・自助、共助、互助、公助の4つのワードは、互助は

共助の一部だという考え方でいいのではないかという多田前課長の意見に納得したという意見多数。絹川委員からも互助と共助の言葉の使い分けの議論に時間を使うより、共助で良いという意見が届いた。

- ・広報や新聞で公開された情報を私たちは把握しているのかという疑問が出た。
- ・ワーキンググループに気をつけて欲しい点として、条文は中学生が読んで理解できる表現にする必要がある。「難しいことをやさしく、やさしいことを深く、深いことを面白く」。

■今後のスケジュール

来月、市長に提言しようとする、骨子案のまとめまでに4回の会議を行わなければならない。市長への提言を6月にできればいいが、会議が1回分押した。

■条例の項目課題について（山岸委員より別紙参照）

他のまちの条例を参考に、条例の項目を表にした。使っている用語が同一なものに○をつけている。精査はしていないが、ワーキンググループは、難しい言葉を使わずに条文を作るのであれば参考にしてほしい。

3. まちづくりあるあるの抽出

■抽出の流れ

現在の野々市の現状でいいこと、困っていることを各自記入。こうだったらいいなという理想は記入しない。1枚の紙に1意見だけを記入、一人2つは出す。意見が出そろったら、意見を以下に分類する。

【良いこと】野々市で良いと思っていること。

【与件】解決できないこと。高齢化問題など。

※解決が容易ではないので今回は議論しない。

【課題】解決できること。少子化問題など。皆でやり方やルールを決めると解決できそうなこと。

↓

課題をさらに以下に分類する。

- ・自発心に関係する課題：まちづくりへの気持ち。
- ・連帯感に関係する課題：皆で協力すること。
- ・創造力に関係する課題
- ・まちづくりの仕組み
- ・その他



出した意見を分類後、各自共感した意見に記名投票。
※1人3票

■意見のまとめ

【7票の意見】

- ・ボランティアをする人は多数いるが同じ人ばかり。
- ・出身地を聞かれたときに金沢だと言ってしまう。

【6票の意見】

- ・市民活動団体で役員を決めるときに同じ人に役職が集中する。
- ・何かしようとする時に行政も市民もそっちでやってよとなりがち。行政と市民で押し付け合う。

【5票の意見】

- ・若い人が参加するようにという割に、若い人の話を聞けない人（老人）が多い。

投票が多い意見は課題だととらえていることだが、これを逆手に取って合い言葉を作りたい。

例えば、若い人の意見を聞かない人が多いという意見から、まちづくりに関しては若い人の意見を聞くべきだという意見を共有したい。

【良いこと】（まちづくりを行うにあたっての強み）

- ・町内会活動で、各班長の声かけひとつで出席者が返答している、声かけができればちゃんと来てくれる。
 - ・子供が参加できるバーベキューや運動会などのレクリエーションは家族連れの参加者が増加している。
- 若いまちならでは。野々市ならでは
- ・集まる場所をどこかに決める時に大きな駐車場がある施設が多い。
 - ・市のイベントに農家団体がよく参加してくれている

ので地産地消の機会を得やすい。

- ・若い人に意欲のある人が多い。
- ・大学生が活動している情報が市役所に入ってきてやすい、金沢工業大学の学生が多い。
- ・市が公募委員を募集したらちゃんと集まる。
- ・大学生が祭りやボランティアで頑張ってくれている。
- ・黙っていても助けてくれないが、助けてといえば助けてくれる。
- ・野々市が大きくないので歩いてどこへでも行ける。
- ・市街地を歩くと人のにぎわいや人の気配がする。
- ・朝の挨拶運動などの声かけ。
- ・野々市には大きな箱ものの施設がなく広く感じる。

4. 印象に残ったこと、次に議論したいことの共有

今回の会議を通して、印象に残ったことや気がついたこと、次に議論したいことやまだ話し合う必要があるテーマを振り返りシートに記入。



■①グループ

出身を聞かれたときに野々市ではなく金沢と答えてしまうこととは逆に、野々市らしさを売りこんでいきたい。前文についてはよく考えて構成しないと、野々市らしさがなくなってしまう、ありきたりなものになってしまうので気をつけたい。余談だが、金沢の百貨店のお酒売り場で野々市のお酒である「ichi 椿」が売っていて野々市を愛する人としては嬉しかった。

■②グループ

主に感想の発表をしたが、創造力に関するコメントが少ない。創造力という言葉が皆でイメージできるようになることが必要。野々市らしさを作ることは創造力につながり、野々市らしさをつくるためには野々市のことを好きになり、野々市のことを知っていく必要がある。

ある。子供や女性、学生を巻き込み、役員を決める時に忍びない気持ちになるのではなく、誰でもなれるように、自発心、連帯感を持って、皆で野々市を好きになるのが理想。

■③グループ

ワーキンググループに、山岸委員の作成した資料をもとに条例に何を盛り込むかを議論している段階だという説明、今までの会議でどこまで話し合いが進んでいるかを説明した。

■④グループ

条文に具体的なことを書いていくのかどうかをこれから話し合う必要がある。条例を作るための意見は揃ったが、例えば緑を愛する心を持ちましょうと言うのか、緑を持ちましょうという具体的な話なのかを話し合っ

■まとめ

第2回会議で、どのようなまちを作るかを話したが、野々市に対する想いは具体的に持っており、どう解決するか、Howの部分を条例で扱うと言った。条文自体は抽象的になるが、具体的なことに基づいての抽象さでないという意味をなさない。皆で具体的に考え、課題を解決するための条例になれば良い。魂を入れて条例を作るのが理想。

今まで出してきた意見は、全部条例づくりのための材料。材料をどう組み合わせるとどのような料理（条例）を作るかはこれから行う。

5. 閉会

■藤田会長より

今回はワーキンググループの方々に集まって熱い思いをいただき、考え方の幅が広がった。委員会のメンバーだけで議論しているとどうしても煮詰まってしまう。皆で広げた意見をもう一度練り直すので、ワーキンググループにはまた参加して欲しい。この委員会は、若い年代が少なく、年配の意見が多く、年配の意見だけでは取りこぼすこともあるので、若い人の意見が集まる事で意見を見直すことができると思う。本当にたくさん意見が出たのでありがたい。